

キラリと輝くむらびと

佐井村は「小さくてもキラリと光る村」と紹介されることがあります。この特集では、誇りをもって活動している方、夢実現のための挑戦や、むらづくりに奮闘する方など、佐井村の“ヒト”という魅力にスポットライトをあてて紹介していきます。

まつもと だいすけ
松本 大祐

プロフィール

1983年生まれ、大阪府出身（磯谷地区在住）。平成29年から※漁師縁組事業で佐井村に移住し、一人前の漁師を目指して日々修行中。
※漁師縁組事業……全国から移住者を募り、一人前の漁師になるまで最長5年間、村が生活費を支援する仕組み。



ウニの出荷作業をする松本さん

——どうして佐井村で漁師になろうと思ったんですか？
もともと釣りが好きで、田舎暮らしにも憧れがありました。大阪にいたころはサラリーマンをしていたんですが、会社員として雇われて仕事をすると、自分の力で稼ぎたいと考えていたとき、たまたま佐井村の漁師縁組事業を知ったのがきっかけですね。
——実際に佐井村に来てみてどうでしたか？
いい感じですよ、あんな声かけられて会話することもありません。大阪にいたころは仕事以外での会話はほとんどなかったですし、親しみやすい感じがしました。——
——今までどんなことやってきましたか？
ウニ突きや釣り、イカ網にタコかごなどですね。あとはよそで網があるときに手伝ったりとか。今はほとんど一人でやっているの釣りがメインです。



漁船に乗り込む松本さん

——最後にこれからの抱負をお願いします。
ウニにせよ釣りにせよ、とにかく周りの漁師に負けたくらいにたくさん獲れるよう頑張ります。
——実際に漁師の仕事をやってみてどうですか？
漁師は想像以上に厳しい世界だなんて（笑）。今年で漁業権をもって2年目なんですけど、年間通して仕事をしてもなかなか……。ここにずっと居たくても、収入がなければそうもいかないじゃないですか。魚の価格が安いなら量を獲れば良いと思っても、なかなかかそう単純な話でもないし。魚で食べていくにはどうするかってところが今後の課題ではありますね。

「令和3年台風第9号等大雨災害義援金」 ご協力ありがとうございました

9月21日（火）、佐井中学校赤十字委員会委員長の細間龍斗さんが役場を訪問し、義援金を日赤佐井村分区長へ手渡しました。佐井中学校では、昨年の令和2年7月豪雨災害の際も、いち早く募金活動を行い義援金を届けてくれました。

日赤佐井村分区に届けられた義援金は、日赤青森県支部へ送金し、被災された方々のもとへ届けられることとなります。佐井中学校のみなさん、ご協力ありがとうございました。

で・き・ご・と

